第８回　石巻地区広域行政事務組合
新ごみ処理施設整備検討委員会　議事録

〔日時〕：令和７年７月７日(月)午後２時００分から午後３時３０分まで
〔場所〕：石巻地区広域行政事務組合　４階　大会議室

出席委員（１２名）

依田　清胤	委員長	石巻専修大学　理工学部　生物科学科教授
八鍬　　浩	副委員長	公益社団法人　全国都市清掃会議　技術部長
遠藤　美砂子	委員	宮城県東部保健福祉事務所　技術副参事兼総括次長
髙橋　誠志	委員	石巻市地域連携会議　会長
木村　美保子	委員	石巻商工会議所女性会　会長
伏見　不二雄	委員	石巻市廃棄物対策審議会　副会長
川村　久美	委員	石巻市環境審議会　副会長
吉木　妙子	委員	東松島市商工会　理事
阿部　　求	委員	女川町行政区長会　会長
五十嵐　秀彦	委員	石巻市　市民生活部長
生井　浩二	委員（代理）	東松島市　市民生活課長
阿部　清人	委員	女川町　町民生活課長

欠席委員（１名）

及川　輝明	委員	宮城県漁業協同組合矢本支所　運営委員長

事務局出席者　石巻地区広域行政事務組合（１０名）

阿部　雅之	事務局長
吉田　　稔	事務局次長
鈴木　敏寿	施設管理課長
吉木　真也	施設管理課長補佐
勝又　武志	施設管理課長補佐
坂下　真二	石巻広域クリーンセンター　センター長
鈴木　信一	石巻広域クリーンセンター　副センター長
千葉　　信	施設管理課　主幹兼施設整備係長
秋保　祐二	施設管理課　主任技師
今野　和斗	施設管理課　主事

新ごみ処理施設整備基本計画策定支援業務委託事業者
パシフィックコンサルタンツ株式会社（４名）

大木　雄介
太田　望斗

立野　悠太
渡邊　蒼世

次　第
１　委員長挨拶
２　議事
(1)　公的支援制度の整理について【資料１】
(2)　運営方式の整理について【資料２】
(3)　処理方式の比較評価手法（案）について【資料３】
(4)　ごみ処理量の見込みについて【資料４】
(5)　その他
３　その他

【配布資料】
資料１　公的支援制度の整理
資料２　運営方式の整理
資料３　処理方式の比較評価手法（案）
資料４　ごみ処理量の見込み

【事務局】
本日は御参集いただきまして誠にありがとうございます。
ただいまから第８回石巻地区広域行政事務組合新ごみ処理施設整備検討委員会を開催いたします。
本日の会議につきましては、及川委員から欠席の連絡がございました。また、東松島市の藤田委員より、東松島市市民生活部市民生活課生井課長様が代理として指名され出席となっております。
本日の会議は委員１３名のうち１２名の出席となり、半数以上の出席となっておりますので、委員会条例第６条第２項の規定により会議が成立していることを御報告いたします。
初めに本日の会議資料の確認をさせていただきます。本日の資料は次第、議事に関する資料といたしまして、資料１から資料４でございます。なお資料４につきましては本日配付させていただいております。
資料の不足はございませんでしょうか。
では本日の会議は次第に基づき進めさせていただきます。

〔「はい」という声あり〕

１　委員長挨拶
【事務局】
それでは１委員長挨拶を依田委員長よりお願いいたします。

【委員長】

暑いところお集まりいただきましてありがとうございます。

新ごみ処理施設の姿が具体的に見えるようになってきておりますので、引き続き議論をお願いできればと思います。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは２議事に入りたいと思います。

議事の進行につきましては、新ごみ処理施設整備検討委員会条例第６条第１項の規定に基づき、依田委員長が議長となります。

それでは依田委員長よろしくお願いいたします。

２　議事

【委員長】

それでは早速議題に入らせていただきます。

今日の議事は４項目あります。１つ目が公的支援制度の整理について、２つ目が運営方式の整理について、３つ目が処理方法の比較評価手法（案）について、４つ目がごみ処理量の見込みについてです。

運営方式の整理、処理方式の比較評価手法（案）が今回の委員会において、主に議論いただきたいところとなります。よろしくお願いいたします。

では早速ですが、１つ目の議題の公的支援制度の整理について、これは新ごみ処理施設を整備するに当たり活用できる公的支援制度を整理した資料かと思います。実際には、総事業費はすべて公的支援制度で賄えるわけではないので、工夫しなければいけないということになろうかと思いますが、その内容について説明よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、(1)公的支援制度の整理について説明いたします。資料１を御覧願います。

〔資料１について説明〕

【委員長】

ありがとうございます。

公的支援制度を活用しても負担金があるということで、負担金をどれだけ少なくしていくことができるかが、大事なところかという気はしておりますが、何かこの件に関して、御質問、御意見等ございますでしょうか。

実際には、具体的な中身が見えてこないと詳しいところまで詰められないと思いますが、大事なところは交付金では交付対象部分により１/２から１/３までしか出ないということです。

それ以外は何らかの形で賄っていかなくてはいけないということになります。計画内容を検討するため、念頭に置いていただくのが必要かと思います。

【委員】

質問というわけではないのですが、感じているところを少し話させていただきたいと思います。

やはり大きな事業をやる上で、事業費を全部賄うということは有り得ない話であって、国からの交付金、そういったものを十分に活用するということは大前提になるだろうと思っています。ただ、国の交付金を受けたいがために、不要なものにまで手を出してしまうというようなことがあってはならないと思います。

事務局でも提唱しているように、持続可能でかつ実現可能な、そういう整備計画が必要であるとうたっておりましたので、そのとおりだと思います。

この後の資料でもありますが、処理方式によっても変わってくるだろうなと思いますが、まずは持続可能でかつ実現可能な施設とするために吟味した上で、対応していただければと率直に感じております。私の感じている一端を述べさせていただきました。

【委員長】

ありがとうございます。

大事なところではないかと思いますし、それは全員忘れてはいけない視点だろうという気はしております。

他に何かございますでしょうか。

それではこの件に関してはお認めいただいたということにさせていただきます。

では続きまして、運営方式の整理についてでございます。

こちら事務局の方から説明よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、議事(2)運営方式の整理について御説明いたします。こちらについては、パシフィックコンサルタンツより説明いたします。

〔資料２について説明〕

【委員長】

ありがとうございます。

運営方式は色々あるということですが、実績としてＤＢＯ方式が多いのかなと思います。いずれにしても、施設整備計画が決まらないことには、絞り込みができないですが、このような運営方式があるということを頭の隅に置いといていただくといいと思います。この件に関して何か御質問、御意見等ございますでしょうか。ここで議論するようなものではないような気がし

ますが。よろしいでしょうか。

〔はい。の声あり〕

ありがとうございます。
では(2)は以上となります。
続きまして(3)処理方式の比較評価手法（案）についてということになります。
これは資料３に、基本方針が１から６まで整理されており、基本方針それぞれについての評価項目があり、さらに、それぞれの評価項目について評価の視点があります。議論の進め方としては評価項目について検討していただき、そのあと、それぞれの評価の視点について、検討していただく流れです。
資料最後に燃やせないごみ・粗大ごみの破砕選別処理フローが整理されております。これは埋め立てごみの減量化ということで、基本構想においても非常に重要視していた部分かと思いますが、この点も含めて事務局の方から説明をお願いいたします。

【事務局】
それでは、(3)処理方式の比較評価手法（案）について説明いたします。資料３を御覧願います。
〔資料３について説明〕

【委員長】
ありがとうございます。
情報がたくさんありますが、燃やせないごみ・粗大ごみの破砕選別処理フローと比較評価手法については別の話かと思います。まずは処理方式の評価項目とそれぞれの項目の評価の視点の内容についての検討をしていきたいと思います。
この件に関して何か委員の皆様から御意見等ございますでしょうか。

【委員】
評価の視点について見ていきますと、２ページ、「３地域特性による廃棄物への対応」の「刈草の堆肥化の可否」という形で項目を入れていますが、処理方式の比較評価の項目としては、適当ではないと思います。処理方式の評価方法に関する検討ですので、刈草をどのように堆肥化していくのかについては、別途検討するべきだと思います。焼却施設にどう入れるかという話ではなく、どの処理施設においても堆肥化は課題だと思いますので、評価の視点として入れるのではなく、別の形で検討すべきではないかというのが１点あります。
もう１点、３ページ「処理後の残さの資源化」という項目があります。処理後の「残さ発生量の少なさ」という視点は、「最終処分場の残余容量の影響」と直接リンクする話で、ダブル評価している形になってしまうので、ここの部分は統一して評価しないといけないと思っています。

続けて１ページに戻っていただきまして、今度は処理方式の評価の話をさせていただきます。例えば１ページの「２災害に対する強靭性の向上」について、「緊急停止と再稼働のしやすさ」において、ストーカ式というのはＩＤＦ装置を止めれば機械が全部止まるので、緊急停止が問題なくできます。ガス化溶融シャフト式、ガス化溶融流動床式が緊急停止に優れているという形で「◎」で評価されておりますが、ストーカについても問題なく、同じ評価になるのではないかという私の感想でございます。

もう１点は、４ページ、「破砕選別設備との連携」について、評価の視点が、「破砕選別設備との効率的な連携と破砕選別残さ量の処理」と書いてありますが、どの処理方式においても破砕後に選別した不燃物も処理可能である場合は、破砕選別設備の機器点数を少なくすることが可能であると思います。そういう面でいくと、これはガス化溶融の方が「◎」で書いてありますが、ストーカ式も「◎」でもいいのかなという気がしていました。

【委員長】

ありがとうございます。

まず１つ目が、１ページの「２災害に対する強靭性の向上」の「緊急停止、再稼働のしやすさ」ということで、ストーカ式が「○」で、ガス化溶融シャフト方式とガス化溶融流動床式が「◎」になっていますが、実際にはこの緊急停止という点ではストーカ式でもガス化溶融式でも、それほど大きな違いはないので、すべての処理方式において「○」という形にしたほうが妥当であろうというのが１つ。

２つ目が、２ページの「３地域特性による廃棄物への対応」の「刈草の堆肥化の可否」ということで、焼却施設の処理方法の評価方法を整理する上で、評価の視点として設けるのではなく、別の機会に検討をすべき事項であるという御指摘かと思います。ですので、評価の視点「中型・大型動物、刈草等の処理可否・条件」の中に含まれる形で評価を行い、新ごみ処理施設に持ってくる前段階としてどういう施設が必要かということを検討しなくてはいけない。これは改めて事務局の方から説明いただければいいかと思いますが、「刈草の堆肥化の可否」を完全に削除するのではなく、「中型・大型動物、刈草等の処理可否・条件」と併せて検討を進めていくことになろうかと思います。

３つ目が、３ページの「４循環型社会・脱炭素社会の形成推進」の「最終処分場の残余容量への影響」ということで御指摘いただきましたが、「最終処分場の残余容量への影響」は「残さ発生量の少なさ」によるため、評価の視点として重複しているのではないかということかと思います。

最後４ページ目の方の「破砕選別装置と効率的な連携と、破砕選別残さ量の処理」ということで、ストーカ式とガス化溶融式で「○」、「◎」という評価が違うが、ストーカ式とガス化溶融式で違いがないため、評価としてはすべて「○」になるのではないかというのが今のところの案ということになりますが、この件も含めて何か委員の皆様から御質問、御意見等ございますでしょうか。

【委員】
最後にお話をいただいた比較評価結果を踏まえた処理方式選定の可否の所で、「◎」、「○」、「△」、処理方式の４つを比べてみると、ストーカ式が「◎」が２つで、ガス化溶融シャフト式が「◎」が４つになっている、これらを比較したときに、今の世の中、ストーカ式が主流になっているのに、なぜガス化溶融炉の評価が高くなるのかなと不思議に思う。
それから、「刈草の堆肥化の可否」というのは、別途検討すべきというのは、そのほうがいいのかなと今感じました。
資料の中に点線の四角での囲みが何か所かあるのですが、先ほどの説明では、今、プラントメーカーの方に実施中だという話でした。どこのメーカーにどのように、アンケートを出しているのか分かりませんが、このアンケートの仕方もまた変えないと駄目なのかなと思いました。現在実施しているアンケートの内容について私たちに説明いただくことはできるのでしょうか。

【事務局】
１つずつ整理させていただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

始めに１ページの評価項目についてですけれども、「２災害に対する強靭性の向上」でございますが、現在「◎」となっていますガス化溶融シャフト式、ガス化溶融流動床式とストーカ式では変わらないという御指摘かと思います。委員の言われるとおり、焼却＋メタン発酵のみ「△」で、その他ガス化溶融シャフト式とガス化溶融流動床式については「○」評価で修正したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

【委員】
◎ではなく、○ですか。

【委員】
３つとも○ということですか。

【事務局】
そうです。

【委員】
いいと思います。

【委員長】
ガス化溶融シャフト式、ガス化溶融流動床式が特に優れている、という訳ではないということですか。

【事務局】
そういうことになります。

【委員長】
これはよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

【委員長】
それでは進めさせていただきます。次お願いします。

【事務局】
次に２ページ、「３地域特性による廃棄物」の「刈草の堆肥化の可否」について、処理方式の評価の視点として検討するより、新ごみ処理施設に設ける設備であるかを検討する必要があると考えております。
そのため、処理方式の評価項目からは外させていただきますが、先ほど委員に質問された部分と関連しますが、現在、刈草の堆肥化についてプラントメーカーアンケート調査を行っているところです。
また、委員長の説明の中で、プラントメーカーヒアリングは今後行うというような表現だったと思いますが、スケジュールの関係で既にプラントメーカーアンケート調査中であることを補足させていただきます。その中に、調査項目の１つとして、刈草の資源化に関する内容を入れております。次回委員会でその結果を報告できると考えておりまして、併せて刈草の発生量の見込み方と整理し、次回委員会にて御説明したいと思っております。
「刈草の堆肥化の可否」については処理方式の評価項目からは外して整理し進めていきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

【委員長】
よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

【事務局】
次に３ページでございます。
「４循環型社会・脱炭素社会の形成推進」の「処理後の残さの資源化」について、「残さ発生量の少なさ」と「最終処分場残余容量への影響」が同じ評価の視点ではないかという御指摘でございました。確かに意味合いとしては一緒でございます。ただし、評価の視点の表記としては、「発生残さの少なさ」ではなく、「最終処分場残余容量への影響」と整理し、残さの発生量をもって評価をしていくというような形で整理したいと考えますが、いかがでしょうか。

【委員長】
よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

【委員長】
ではそういう形で進めさせていただきます。

【事務局】
次に、４ページでございます。
御指摘がありました部分で、４ページの１番上「５新たな処理システムの取組み」についてです。
「破砕選別設備（不燃粗大ごみ処理）との連携」の評価の視点「破砕選別設備との効率的な連携と破砕選別の残さ量の処理」でございますが、委員から御指摘ありましたとおり、処理方式により差はないと考えますので、すべての処理方式の評価を「○」に修正したいと考えております。いかがでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

次に、委員から質問がありましたが、評価の結果ガス化溶融シャフト式が特に優れているものは４つというのは事実でございます。
ただし、特に優れているが４つ、優れているが４つ、課題があるが４つでございます。ストーカ式は特に優れている項目はガス化溶融シャフト式よりも劣るものの、課題が少ないという点が評価できると考えています。
加えて、プラントメーカーアンケートについて、アンケート依頼をしている会社について言及することはこの場では控えさせていただきたいと考えています。数については、９社にアンケート調査を行っております。
ではここまで整理した、評価の視点、各処理方式の評価を修正した結果、総合評価結果に変更がございましたので報告させていただきます。
ストーカ式が
「◎：特に優れている」が３つ、
「○：優れている」が８つ、
「△：課題がある」が１つ。
ガス化溶融シャフト式が
「◎：特に優れている」が３つ、
「○：優れている」が５つ、
「△：課題がある」が４つ。
ガス化溶融流動床式は
「◎：特に優れている」が２つ、

「○：優れている」が５つ、
「△：課題がある」が５つ。
焼却＋メタン発酵方式は、
「◎：特に優れている」が３つ、
「○：優れている」が３つ
「△：課題がある」が７つ。
このような状況になります。

【委員長】
焼却＋メタン発酵方式の数が合いません。

【事務局】
失礼いたしました。焼却＋メタン発酵方式の修正がございます。
焼却＋メタン発酵方式は、
「◎：特に優れている」が３つ、
「○：優れている」が２つ、
「△：課題がある」が７つ。
これが正しい評価です。

【委員長】
ありがとうございます。
では今の段階で「◎」、「○」、「△」に関しての修正も含めた形でのこの案をお認めいただくということでよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

【委員長】
ありがとうございます。
プラントメーカーのアンケートの結果も踏まえたコストの面も含めて最終的な総合評価という形になると思います。そちらについては次回御報告いただけるということですか。

【事務局】
資料３の囲みで示している部分ですが、こちら次回委員会までにはプラントメーカーアンケート調査結果の回答がそろう予定でございます。
その内容を踏まえて、総合評価で処理方式を選択したいと考えております。

【委員】
１ページ「２災害に対する強靭性向上」の「緊急停止、再稼働のしやすさ」という評価の視点について、評価の結果は短時間で可能である、問題はないと整理をされておりますが、具体

的な時間、１日後、１か月後等、そのような時間が分かれば少し調べていただきたいです。

【委員長】
緊急停止してからの再稼働はどれくらいなのか。これは確かに大事なところですね。ここの件に関して何かありますか。

【事務局】
被災の規模によって違うとは思いますが、災害の規模が甚大である場合にはストーカ式が優れるのかなというような感覚を受けます。
緊急停止に関しては調べることが可能な範囲で、次回委員会までにお示しいたします。

【委員長】
ありがとうございます。
これは大事なところだと思いますので、是非情報の収集整理よろしくお願いします。
それ以外に評価項目と評価の視点に関して何か御質問、御意見ございますか。

【委員】
先ほどのアンケートの件ですが、９社にアンケートを出しているということですが、そのアンケートの中身を、資料３の囲みの部分だけでも教えていただけないでしょうか。

【事務局】
主な内容としては、囲みの部分となりますが、関連して調査しなくてはならない部分についても調査しているという状況でございます。
今、手元に資料等を持っておりませんので、正確な回答とならず申し訳ございません。

【事務局】
パシフィックコンサルタンツでございます。御質問いただきましてありがとうございます。
お手元の資料３の囲みのところの部分以外で、どのようなアンケートをしているかについて、今日の委員会でも議論に出ていますが、新ごみ処理施設を建設するコストと維持管理をしていくコストを下げるためにどのようなことが考えられますか、というような技術的な意見についても、アンケートをしているところです。そのような視点も加味しながら基本計画の方を策定していきたいと考えております。
補足の説明ですが以上になります。

【委員長】
ありがとうございます。よろしいでしょうか。

【委員】
そういったものを含めてということですので、大丈夫です、わかりました。

【委員】
各処理方式の評価の結果のポイントを確認していたのですが、その中で、単純計算で例えば「◎」を３点、「○」を２点、「△」を１点にして合計していくと、ストーカ式の評価が高くなります。
それ以外の処理方式においては、ガス化溶融シャフト式が２０点、ガス化溶融流動床式が２１点、焼却＋メタン発酵方式が２０点となり、３つの処理方式でほとんど変わりません。単純に評価の総合点数で処理方式を決めていくのか、コストに係る項目について重みづけをするのか等、処理方式を決めるに当たり私たち委員の役割がどのような部分なのかを確認したいです。例えば、基本方針の中でいくつかの視点がありますが、その視点の中で、「６圏域住民のための施設の実現」の内容について私たちは一般市民として一番興味もあります。そのような視点から、単純に「◎」と「○」と「△」の合計点数で評価をしていくのか、この委員会の中で基本方針において重みづけをする項目があるのか、あるのであればどの項目について重みづけをするのか等を議論するべきではないかと思います。
単純に「◎」と「○」と「△」での評価というのは理解できますが、市民から選出されて、委員会の中で話をさせていただいておりますので、重要視する部分は特にどこなのか、そこも少し詳しく教えていただいて次回につなげたいなと思いますが。

【事務局】
御意見ありがとうございます。
今回、案としては６つの基本方針すべてが重要であるという考えの下、特定の評価の視点において重みづけをするという構成にはしておりませんでした。
御意見いただきました重みづけでありますが、委員会にて御意見いただければ、整理して評価していかなければならないと考えています。

【委員長】
ありがとうございます。
重みづけというのは立場が変わると違った視点になろうかと思いますので、まずは粛々と評価を進めて、あとは委員会からの意見として、こういう検討を是非お願いしたいという形で伝えていく流れになろうかという気はします。

【委員】
なぜそのような話をしたかというと、確実に人口が減少していくこの地域で、これから人口が増えるということは想定できないと思います。人口減少が思いのほか早く進んでおります。そのため税収が減っていくことが予測されます。新ごみ処理施設を建設するに当たり、たくさん大事なポイントがあるのはもちろん重々皆さん承知しているとは思います。しかし、人口減少が進む中、持続可能な施設とするために念頭に置いて整理しておく必要があると思いまして

あえて伝えさせていただきました。

【委員長】
ありがとうございます。
これは一番始めの交付金の話とも関連してくると思います。ですから、不必要に大きなものにするというのは、厳に戒めなくてはいけないという気はします。そのあたりは、委員の皆さんも是非意識していただくのが非常に大事かと思います。

【事務局】
人口が減少し、税収が減ることが予想される中で持続可能な施設を作る必要があることから、過大とならない現実的でかつ実現可能な施設整備基本計画の策定が必要であるという御意見かと思います。施設を作るに当たり理想は重要でありますが、施設を維持管理していくという観点からはコスト削減の観点についても重要視して検討を進めたいと考えております。

【委員】
震災のときに中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業という補助金がありました。その補助金を受けて事業再建を試みたものの、14 年、15 年の経過に伴って事業継続が難しくなったとき、補助金の返済が、今、各企業にすごく重くのしかかってきております。このように、国の交付金を受けるにしても、先々を見据えて考えていく必要があります。委員会では理想を語りたいところは沢山あるのは承知しておりますが、理想と現実の両方をしっかり考え精査していかなければならないと思います。

【委員長】
ありがとうございました。
非常に貴重な御意見かと思いますが、何か事務局の方でございますでしょうか。

【事務局】
今回の新ごみ処理施設においては、過大な設備を入れるとコストがかかります。ランニングコストも含め、SDGs の観点から圏域住民の方に納得していただける内容にしていくのが一番重要かと思います。

【委員長】
ありがとうございます。この委員会では、まずハード面でどこまで作り込んでいくかが大きな目的かと思います。そういう意味で、燃やせないごみ・粗大ごみの破砕選別処理フローに示されている、破砕選別処理設備の導入というのは、資源化を推進するため、新たな取組みとなります。
もう 1 つ、やはりそのソフト面でどうするかです。委員会として取り組んでいくことはできないかもしれませんが、意見として展開していただきたい旨を伝えるというのはできることかと思います。色々アイデアを出していただいて、将来性のある形のものを作り込んでいくこと

ができればいいと考えていますので、是非、積極的に御意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

この件はよろしいでしょうか。

では、こういう形で、次回以降、具体的に検討を進めていくということにさせていただきます。ありがとうございます。

燃やせないごみ・粗大ごみの破砕選別処理フロー例の件に関してよろしいでしょうか。これはかなり資源化に有効な設備になろうかと思いますので、新たに取り入れるということですので、御確認をお願いいたします。

以上、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

どうもありがとうございます。それでは続きまして(4)ごみ処理量の見込みについてということで、事務局の方から説明お願いします。

【事務局】

それでは、(4)ごみ処理量の見込みについて説明いたします。資料４を御覧願います。

〔資料４について説明〕

【委員長】

ありがとうございます。

計画策定をする上での基礎となる数値ということですので、とても大事なことかと思いますが、この件に関して何か御質問、御意見等ございますでしょうか。できる限り正確にということになろうかと思います。そういう意味では、少しずつですが改善してもらってきているという気がしますし、懸案であった刈草や中型・大型動物に関しての対応についても随時検討していただいているということです。

【事務局】

鹿につきましても、組織市町清掃担当課長会議において検討を進めている状況でございますので、次回ではある程度方向性を示せるかと考えております。

【委員長】

鋭意進めていただいているということかと思いますので、是非、次回の報告を期待したいと思いますが、この件に関して何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

【委員】

中型・大型動物の件で、既に調整中ということですが、まず保管については野生動物なので感染症などの原因になりますので、衛生面も気をつけて考えていただきたい。

あと、見た目の問題があります。小型焼却炉、動物用の焼却炉ができた経緯が、ピットにお

いて動物を処理する際に、クレーンを操作する人たちが精神的に苦しかったということがあります。そのような見た目の部分と衛生的な部分の声を入れて、検討をお願いしたいと思います。

【委員長】
ありがとうございます。
是非ここは鋭意検討いただければと思います。
よろしくお願いします。
他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。
では、この件に関してもお認めいただいたということにさせていただきます。
では最後、議事のその他になりますが、委員の皆様から何か提案ございますでしょうか。

【事務局】
資料３の評価の一部に誤りがございましたので修正させていただきます。
現時点の比較結果でございますが、
ガス化溶融流動床式は
「◎：特に優れている」が１つ、
「○：優れている」が６つ、
「△：課題がある」が５つ。
このような状況となってございます。
以上でございます。

【委員長】
２、５、５が１、６、５になる。

【事務局】
そうです。

【委員長】
ありがとうございます。この件、修正よろしくお願いします。
他にございますでしょうか。

【委員】
溶融スラグについて聞きたいのですが、溶融スラグにはもう全然将来性がないのでしょうか。これから先、技術革新が起きて資源として重宝されることがあり得るとか、そういう兆しがあるとか、そういうことはないのでしょうか。

【委員長】
このあたりいかがでしょう。何か情報をお持ちであれば。

【事務局】

この施設が、平成 14 年から稼働しておりまして、震災まではスラグは資源化できていました。震災後も、数年は災害復旧工事に道路等の関係で利用いただいておりましたが、復興事業が終わるとともに、補助の体系も変わり、スラグ有効利用先の確保が難しいという現状になっております。

今後は、選定する処理方式にもよりますが、現在の状況を大きく変えるため、色々な方面に聞いてはいるのですが、難しいような状況ではあります。

【委員】

ありがとうございます。

【委員長】

他に何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では今日の議事は以上になります。ありがとうございました。

3　その他

【事務局】

ありがとうございました。それでは今後の予定について事務局の方からお話しさせていただきます。３その他になりますが、委員の皆様方から何かございますでしょうか。

〔「ありません」の声あり〕

【事務局】

それでは事務局の方から、次回以降の予定について説明いたします。

第９回が９月２日火曜日、第 10 回が 10 月７日火曜日、第 11 回が 12 月 23 日火曜日となりまして、開始時刻は 14 時からとなりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、これで第８回石巻地区広域行政事務組合新ごみ処理施設整備検討委員会を終了いたします。

本日は御苦労さまでした。